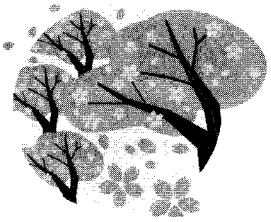
sskp
1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号

小金井 かんえんの友



会報115号　2015年3月20日
発行所　小金井地区肝友会
事務局　〒184－0003
小金井市緑町4-17-16（杉田）
Tel&Fax 042－383－2024
郵便振替　00170－1－96677

安部欣一さん　さようなら　黒川　清知

「強ミノ」の注射の効験（あかし）しのびかに　たけき生命（いのち）の満ち来（き）るごとし

この短歌は安部さんの病状がまだ慢性の頃詠まれた歌です。「この注射のお陰で疲れ知らずの一年を送れた」という生命賛歌の歌です。

このように慢性から肝硬変、肝がんと進み、インターフェロン、ラジオ波、塞栓術、そしてペグリバなど新薬、抗がん剤の投与とあらゆる治療に根気よく挑戦、生きる意欲を示されました。

来る年は九十歳を迎えたし　生き行く日々は尊かりけり

「病を得、生命の有限を知り、死の確かさを知ることを経て、はじめて生きることの尊さを知った」と述べられています。

この前向きの姿勢が過酷な肝臓病との闘いを生き抜いてこられたのです。

安部さんが肝友会に入られたのは確か昭和63年頃だと思います。会社経営の荒波に揉まれたその体験と豊富な知識、教養そしてユーモア溢れるお話でたちまち会員の信頼を得られました。バス旅行の折など安部さんの席の周りには女性会員が取り巻き、そのお話に大きな声で笑い打ち興じておりました。

私が会長を引き受けた際、たって安部さんに副会長をお願いいたしました。12年間非力な私をサポートしていただき、なんとか職務を全うしました。いつも的確なご意見、アドバイスに随分助けていただきました。

安部さんは常に「患者会は第二の家族だ」と言っておられ、またアルコールを止められない人には「酒は肝臓病には毒薬だ」と諌められていました。

時々カラオケをご一緒させていただきましたが、淡々と渋い声、特に三橋美智也の「石狩川エレジー」は絶品でした。

平成26年11月17日とうとう黄泉の国に旅だたれました。享年91歳。

遅き足疲れに馴れて九十一歳　わが成すことのあるは幸（こう）なり

去る2月2日安部さんが社長だった会社の主催で「お別れの会」がありました。200名近くの方々がお別れをしました。安部さんの人脈の広さです。

私の拙い一句を捧げ、心からご冥福をお祈りいたします。合掌

卒翁のお別れ会やなごり雪　　（筆者は、当会相談役、11頁に関連記事あり）

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号

4月12日（日）第30回 定例総会を開催します

≡ 結成30周年記念行事・新設ホームページ披露など ≡

小金井地区肝友会では、下記の要領により、第30回定例総会を開催いたします。この「第30回」という数字が物語るように、私たちの患者会は、結成30周年の記念すべき年を迎えることとなりました。

現名誉会長の杉田清子さんをはじめとする少数の先駆者がまいた種が、小金井市にとどまらず、多摩東部地区に大きく広がる組織として成長してまいりました。会員の数が多いこと自体は、患者数が多いことでもありますからけっして単純に喜ぶべきことではありませんが、そういう多くの患者たちの心の拠り所として貴重な役割を果たしてきたことは間違いありません。

私たちには、この30周年を記念するさまざまな企画を考えるにあたって、単純に「祝う」というような浮かれた考えは微塵もありません。むしろ闘病半ばにして無念の思いとともに斃れていった数多くの病友たちへの鎮魂の思いを新たにし、これからさらに苦しい闘病生活を強いられるであろう高齢重症患者の仲間たちへの連帯の気持ちを確認する機会です。さらに言えば、この間、私たち素人を教え、導いていただいた数多くの先生方や先輩たちへの感謝です。

30周年記念行事の成功のためにも、多くの会員の皆さまのご出席をお待ちいたしております。

記

1　日時：４月12日（日）午後１時～３時（開場：12:30）
2　会場：小金井市福祉会館2F A・B室
3　議事：①冒頭に、新設の当会ホームページの試写（本誌12頁参照）
　　②平成26年度活動報告 / 決算報告・監査報告
　　③平成27年度活動方針 / 予算提案
　　結成30周年記念行事　企画報告
　　④役員改選
4　欠席の方は必ず同封ハガキにて「委任状」の提出をお願いします（３月末〆）。

＊決算・予算等の会計関連議案は、準備の都合上、当日配布とさせていただきます。もちろんすべての会員の方が会計資料を見る権利をお持ちですから、必要な方は後日ご連絡ください。当日以降、いつでも送付いたします。

＊本総会の紹介に関して、東肝会会報204号「情報BOX」欄において、年次等の数字に誤記がありました。お詫びして、本ページのように訂正させていただきます。

B・C型肝炎患者支援／ウイルス早期検診体制強化 のための

国会請願署名・カンパにご協力ください　4月10日〆切

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号

小金井地区肝友会

結成30周年記念／「会員の声」特集

当会は今年で結成30周年記念を迎えます。メインイベントは5月10日の「謝恩懇親会」（別途案内）となりますが、それに先立つこの会報では、広く会員の方々にご意見をつのり「会員の声」特集として編集することといたしました。運営委員の方にも会の役職とは直接関係なく、自由な意見を寄せていただきました。

（掲載は、五十音順、敬称略）

小金井在任のころ

岩城　弘子

このたび、会報への投稿募集のお葉書をいただき、小金井保健所に勤務中、大変お世話になり、また、毎回質の高い「小金井かんえんの友」をお送りいただき、ひとこと御礼をと拙い筆をとった次第です。

私がご当地にまいりましたのは、たしか1989～93年の3年半でしたが、他の地域とはちがい、すでに自主的な肝炎の会が活動されていて、大変啓発されたのを、今でも鮮明に思い出します。

その後は都の要請で、エイズの予防に5年間関わりましたが、入都の条件として、丸山ワクチンの研修を週一回認めてもらって、以来35年、日本医大へ通っております。肝がんの方へもときどきお目にかかる機会がございます。

現在満87歳で心身ともに衰えましたが、皆様のご健康を心から祈っております。（筆者は、元小金井保健所長）

小金井地区肝友会との出会い

上椙　和子

C型肝炎とわかって20年近くなり、武蔵野の日赤に通院しています。数値はそれなりに安定しているので、副作用の怖いインターフェロンを逃げ、先延ばしにしています。

I型、ウイルスの数が多い、過去軽い脳梗塞1か月入院、心臓弁膜症、痩せていて体力がない、未亡人で子どもたちは地方に暮らしている…などなど、なのです。

小金井地区肝友会を知ったのは、新聞に掲載されていた講演会の案内でした。夫を亡くし不安でいっぱいのときでしたから、早速講演会に出かけ、友の会に入りました。

杉田さまをはじめ、お世話をしてくださる方たちの献身的でフレンドリーな

対応、あふれる善意に患者同士の連帯が伝わってきました。「C型肝炎患者としてここに居場所がある」と安堵したのです。活発な患者会であることも後から知りました。

偶然小金井周辺に住んでいたために、私たちは恵まれているのですね。

講演会、談話室、親睦旅行、たくさんの企画を用意してくださっていることに、頭が下がります。感謝の気持ちでいっぱいです。

私は自分がC型肝炎の患者であることを、事あるごとにカミングアウトするようにしています。二人の子どもたちには感染していなかったことも伝えます。C型肝炎のことを（医原病であることを含めて）いろんな人に知ってもらいたいと願っています。すると思いがけないときに「私もよ」と告白（？）されたこともあります。

資料満載の会報は、広島の同病の友人にも回しています。

講演会で知った「デルタクリニック」の日野先生からセカンドオピニオンを受けました。

「すべて　いちから　全部調べてください！」とお願いしました。

「こんなに調べた患者はいない！」と苦笑されていましたが、診断結果は「様子を見てていい」と言ってくださいました。帰路の晴れ晴れとした私の気持ち！ご想像ください。これも小金井地区肝友会のおかげです。

親しくなったお仲間とお会いするのも楽しみにしています。皆さまとのさりげない会話に慰められ、「お互い頑張りましょうね」と、祈るような気持ちになるのですよね。

日赤の主治医のK先生から、秋に出る新薬の投与を勧められています。72歳の今、年齢的にもぎりぎりです。副作用も少ないとか。血小板が少なく、不安もありますが、信頼しているドクターなので、やってみようかなと前向きに考えています。初めての「挑戦」です。

＜終わりに＞

子どもたちのいる広島へよく帰りますので、何のお手伝いもできなくて、役員の皆さまに申し訳なく思っています。お許しください。

せめてもの罪滅ぼし、とこの記念誌に投稿いたしました。

皆さま、どうぞお元気な毎日を！

楽しいホームページ

川田　義広

２年ほど前、東京肝臓友の会の理事会の席でした。複数の理事さんから、「今回の会報は感動しました。」と声を掛けられました。それは、泉先生の、「私が診てきた肝炎患者の闘病人生」の講演録でした。咄嗟に、「ホームページがあれば日本中で読んで貰える。」と思いました。

それから、半年程いろいろなホームページを眺め、「個人でもやっているくらいだから、きっと出来るはず」と感じるようになりました。そこで、元同僚で現在はホームページ作成に携わっている高柳さんに相談しました。

・　お金をかけないこと。
・　自分たちで制作・維持運営ができること。

を見極められなければ止めようと思っていましたが、高柳さんに自信をつけてもらいました。さらに半年後、運営委員会にたたき台の試作品を見せ、６名の有志が集まりました。その後、計７回のホームページ検討会を重ねて今日に至り、ようやく仕上がったところです。

楽しみながら出来た割には、全員がまずまずの出来栄えと自負しています。

実を言うと、パソコンを多少触っている人なら、５つほどの基本操作を身に付ければ意外に易しいのです。出来ると実感してからは、みんな一段と興味が沸いたようです。

ホームページの本当の難しさは、今後の維持管理です。これには、会員の皆さんの協力が必要で、特にたくさんの投稿を期待したいものです。

二つの大きな協力がありました。検討会を開くのにインターネット接続環境が絶対に必要ですが、小金井市障害者福祉センターに場所をお借りすることが出来ました。

また、プロのデザイナーであるジョッチャ（有）の小泉さんがロゴマークを考案し提供してくれました。両方とも大変心強い応援でした。可能性が半々でも前に進めば、思わぬ協力に出会えて物事が実現していくのを実感しました。

面白そうだから、この企画に参加したいという人は大歓迎です。どなたでも、大丈夫です。ぜひ参加してください。（筆者は、当会会長）

小金井地区肝友会との出会い

窪田　裕和

「もしもし、こちらは肝炎相談です…」これが小金井地区肝友会の杉田名誉会長との初めての出会い（？）でした。確か平成３年の夏で、読売新聞だったと思いますが、東京肝臓友の会が電話で肝炎相談を行うとの記事を読み、今と違ってまったく情報がない時代に藁をもつかむ思いで電話をした記憶があります。いろいろ伺ったあと私は小金井市に住んでいるという話になったら杉田さんは、小金井肝臓友の会（旧名）の事務局をしているから、市民まつりに遊びに来たらとのお誘いを受けたのがそもそもの始まりです。

私は高校１年生の時に盲腸にかかり、地元の診療所で手術を受けた際にＣ型肝炎に感染したと思われます。その後大学を出てから就職し、毎年の健康診断ではGPT、GOTの値が３桁でしたが、自覚症状もないし、当時そんな理由で会社を休んで病院に行ける雰囲気でもありませんでした。20年以上ほった

らかしにしていたら、激務が続いた後、健康診断でGPT、GOTが4桁（つまり1000以上）になってしまい、出張中呼び戻されてその場で入院となりました。当時はまだ肝炎というだけでC型肝炎ウイルスも発見されておらず、最初の病院に2か月、その後自宅近くの府中病院に4か月以上入院しましたが、毎日強力ミノファーゲンCを打つだけで、とうとう100以下には下がらないまま退院いたしました。その頃は治療の情報といっても病院の入院病棟、外来の待合室での患者間の無責任でいい加減な情報しかなく、肝友会の出会いがその後の私の治療経験に大いにプラスになりました。途中の話は割愛させていただきますが、C型肝炎ウイルスの発見、インターフェロン治療の開始により、3回目のペガシス＋コペガスの治療でウイルスが消えて6年目になろうとしています。決して完治したとは思っておりませんが、多少肝臓がんの可能性が下がったかなとは思っており、有効なさまざまな情報をもたらしてくれた肝友会に対しては大変感謝しております。そんなこともあり、現在でも多少の会のお手伝いをさせていただいております。

今気がかりなのは、ウイルスが消えたことにより患者会の会員が減ってきていることです。患者が減るのはいいことですが、ウイルスが消えただけでは、決して将来にわたって安心とは言えず（ウイルスが消えて10年以上たった人からも肝臓がんは出ています）定期的に検査の必要はあると思います。ウイルスが消えたことによって治ったと思って退会する人がいるのは結構ですが、出来たら会に残って最新の情報だけは常に得られるようにしていていただきたいと思っています。

その他にも重症化した方々や感染していることを知らずに検査すら受けずにそのままの人もたくさんいらっしゃいます。まだまだ患者会の活動は続くと思いますので、皆様のご協力をお願いいたします。（当会、副会長）

病いの句

黒川　清知

たばしるや鵙叫喚す胸形変（もずきょうかんきょうぎょうへん）　波卿

この句は俳人石田波卿が国立東京療養所（現東京病院）で結核の胸郭成形手術を受け、2度にわたり肋骨7本を切除、当時（昭和23年）は全身麻酔も余り効かず、このような激しい表現になった。私も21歳の折同じ手術を受け、その痛さは今でもはっきりと覚えている。だからこの句に深く共感する。波卿は10年後に亡くなるが、私は結核は完治したもののその時の多量の輸血でC型肝炎を37年後に発症した。

私はまた平成10年に胃がんの手術、その時の句、

「癌告示受け炎昼を帰りけり」

インターフェロン治療時、

「五月闇新薬強き副作用」

しかし暗い句ばかりでもない。

栗飯や病人ながら大食（おおぐら）ひ　　子規

正岡子規は両肺に大空洞を抱え、カリエスで壮絶な病床でもユーモア忘れず、食欲旺盛、強い意志の持ち主だった。私もかってこんな句を詠んだ。

「古稀なれど病なれども雑煮旨し」

要するに「病いなどでくよくよするな」そんな気持ちで今日も下手な俳句をひねっている。（筆者は、当会相談役、元会長）

30年の活動を貫いた私の思い

杉田　清子

今年は小金井地区肝友会が結成されて30年を迎える記念の年となりました。

私が結成に関わってからの30年の歳月の歩みは、諺に言う「光陰矢のごとし」という言葉のままだと実感いたしております。

この患者会の結成はひとりの重症患者の願いから発したことでありますが、その方が闘病半ばにして無念の最期を迎えられたことは、今も私の胸の内に重くのしかかっています。

肝炎患者が重症化しないよう、また重症化させてはならないという思いは、今も胸の内に熱く抱いていますが、事志とちがって残念ながら多くの病友たちが旅立って行き、私の願いがかなうことはありませんでした。現在、新薬の開発が相次いでいますが、いずれも初期の抗ウイルス剤であり、残念ながら重症高齢患者に劇的に効く薬は未だ開発されてはいません。重症高齢患者は治る見込みのないまま、不安な毎日を過ごしているのが現状です。

私は患者同士の療養相談事業（ピアカウンセリング）に永年携わってきましたが、療養相談では、私自身患者の一人という立場で、つとめて明るく、希望をこめて、楽しさをのこすような相談になるようつとめてきました。相談内容からはなれてお互いの胸の内を話し合うこともありました。それがきっかけで、お互いに深く思いやる気持ちを持ったことも多くありました。

歳月を重ねるにつれ、かつての同病者たちが重症化し、つぎつぎと旅立つケースが増えてきています。やるせない思いにつぶされそうですが、新しい患者さんたちが新薬の開発で救われているというレポートに接して、せめてもの慰めと考えています。

この患者会に関わった歳月は、私の人生に何ものにも代えがたい人生のさまざまな経験や喜びも得られたことと、心からの感謝の気持ちで受け止めております。（筆者は、当会創立者で、名誉会長）

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号

老残の“葦”

鷹野　冬樹

裏を見せ　表を見せて　散るもみじ　――　良寛、辞世の句と伝えられます。

人間、死んでいくまでには表のきれいごとだけではなく、裏の醜さも見せないではすまされない面倒な生き物なのだ、という譬えと理解します。

尾籠な話で恐縮ですが、先日、突然下痢状態に陥り、自分の意志では何ともコントロールしようのない事態になりました。あわてて漏れ防止パンツをはき、その上からさらにパッドを当ててガードしましたが、時をかまわず襲ってくる症状に苦しみました。「これはただ事ではない」と感じながらも、病院に行こうにも身動きがとれず、もう少し落ち着いたら行こうと考えていました。その頃、自分の持病で受診した娘が「じつは父が…」と、医師に助言を乞うたところ、「落ち着いてからなどとカッコつけている場合ではない。汚物まみれのままでもいいから、すぐ病院に駆け込むべきだ」と怒られたというのです。

発症後数日たっていたその頃、さらに尿の出までも悪くなり、ふと自分の腹を見てみると、ぽっこりと丸くふくれて真中に哀れなおへそが突き出しているではありませんか。「ああ、これが腹水というものか！」衝撃とともに理解し、病院行きを決意しました。（後日の主治医の話では、これは「腹水」ではなく、何らかの事情によって排尿の具合が悪くなり、膀胱が膨満したためと判明）

「押しかけ診察」の結果、腸の急性炎症と診断され、服薬のあと、次第に快方に向かいました。終わってしまえば、1週間足らずの「ミニ嵐」のような出来事でしたが、一瞬ではあれ「ついに肝がんが腸に転移したか」と疑うなど、私にとってはかなりの恐怖と衝撃の時間でした。人間の容態というものは、このように突然に変容し、一転奈落へと転がっていくものなのか…。

私は10代後半の頃、柄にもなくカトリシズムに傾倒し、教会の聖書研究会に通うとともに、パスカルからモーリヤックへとつづく作家たちの著作に読みふけりました。「考える葦」で有名なパスカルは、神の偉大さの前の人間の肉体の卑小さのなかで、かろうじて精神の作用である「思惟」というものに、人間の高貴さを見出したのでした。モーリヤックになると、もう「人間の高貴さ」などというものは見出されず、神の栄光と人間の悲惨という対比の中で、人間の肉体の醜さ、汚さばかりが強調されていました。彼の『蝮のからみあい』という作品では、人間は「糞袋をぶら下げた蝮」と比喩されていました。折から、気鋭の実存哲学者サルトルが、猛然とモーリヤック批判を開始し「神の摂理か、人間の自由意思か」と問う「自由意思論争」が展開されました。私はその過程でようやく神観念の呪縛から解放され、新たな人生を歩むことができるようになりました。それでも「生まれながらにして死を刻印された、不条理な生を生きる人間」という、パスカルからの教えは厳然と今日も身にしみこんでいます。

先行きの短い私には、もはや家族の前に見せるほどの「表」は何も残っていません。あるのは「痴呆」を含め、進行していく肝硬変などますます醜態を加えていくであろう「裏」の姿のみです。せめて、かつて「考える葦」であろうとしたひそやかな矜持を、老残の日々のなかでどう保持していくか、試されるこの頃です。

杉田清子さんと小金井地区肝友会

谷口　美和子

今、私の手元に「創立十周年記念号」と題された20年前の会報があります。名誉会長の杉田清子さんからいただいたものです。

ページをめくると、結成時のさまざまな資料が掲載されています。中でも興味深いのは「小金井に肝臓病患者の会をつくりましょう」という呼びかけチラシ。ガリ版を使った手づくり印刷に時代を感じます。呼びかけ人は杉田さんと野沢忠和さん。おふたりや協力者の努力が実って、約2年の準備期間を経て昭和61年4月に小金井に患者会が正式に発足します。しかし残念ながら野沢さんはそれを待つことなく逝かれました。

その後の杉田さんの活躍ぶりについては、多くの会員がご存知と思います。野沢さんへの無念な思いが、活動の原動力のひとつであったのではと想像します。コツコツと動いていつの間にか行政や周りの人を動かしている杉田さん。優しくて困った人がいると手助けしないではいられない杉田さん。杉田さんがいらっしゃらなければ、今の小金井地区肝友会はなく、30周年を迎えることもなかったでしょう。

杉田さん、30年以上もの間、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。（当会、運営委員）

「大賀意見書」を読む

萩尾　邦生

以下の一文は当会の役職とは全く関係のない、一会員としての私見です。

いきなり「大賀意見書」と言われても、「それ、何？」と、いぶかる方が多いことと推察します。無理もありません。かく言う私自身、Kさんから教えられる数か月前までは、その名称も存在も知らなかった事柄ですから。

「大賀意見書」とは、厚労省に設けられている「肝炎対策推進協議会」の第12回会合（2014. 7．9開催）において、同協議会委員のひとりである大賀和男さん（日肝協常任幹事）が提出された意見書のことです。じつはそのひとつ前の11回会合において、厚労省の委託を受けた八橋弘先生をキャップとするチームの作業による「八橋班研究報告」が、八橋先生ご本人から結果が報告された

ことに関する、大賀さんの意見表明というべきものです。

この「八橋班研究報告」をめぐっては、患者団体との直接交渉の中で、当時の田村憲久厚労大臣が「同報告が出たら、ウイルス性肝炎の基本政策を見直す」と語った経緯があり、「八橋班研究報告と田村発言」は、患者団体の大きな期待のなかで、セットにして受け止められてきた経過があります。

ところが厚労省は、同報告が出ても「基本政策の見直し」どころか、同報告を「(肝炎患者のための)相談員養成のための研修プログラム策定に関する研究」と、位置づけを格下げして発表し、田村大臣の「見直し発言」など知らんぷりをきめこもうとしたのです。この国の役所・役人の体質というものはこういうものだということを、私たちはよく認識しておくべきだと思います。

このような厚労省の動きに対して、大賀さんは「八橋班研究報告」の独自の分析の上に、同報告がいかに重症高齢患者の苦しい闘病の生活実態を物語っているか、早急に前大臣の「言質」どおり、基本政策の見直しに取り組むべきだと訴えたのです。大変貴重で、的確、本質をえぐった意見書というべきですが、役所の審議会の定石どおり「聞き置く」ということに終わったようです。

私が奇異に感じていることはそれだけではありません。私が「大賀意見書」の存在を知ったのは昨年末近く、大賀さんが同意見書を提出されたのは7月。この間、ほぼ半年が経過しています。何の関心もなかったことならどうでもいいことですが、この間私はずっと「八橋班報告」の扱いは結局どうなったのか気にしてきたのです。「そんなものはネットにいくらでも出ている。要するにお前の怠慢だ」と言われれば、それは甘受しましょう。活字人間の私は、まず第一義に重視するのは書籍・雑誌であり（それは私の生涯の仕事でしたから)、ネットは百科事典代わり程度に、必要なとき必要最小限の時間しか見ません。

ではネットをよく見ていない人は、こういう重要な出来事を知らされないまま放置されて当然なのでしょうか。生の一次情報を知りうる立場にあった人は、他にも何人かいたはずです。その人たちは、この「大賀意見書」に接したとき、「これは重要な意見書だ。特筆大書して知らせよう」とは、なぜ考えなかったのか。感度・感性の鈍化なのか、それとも何か他意あってのことなのか、私には理解不可能の対応です。その後の種々の会議でも、この意見書が重要な課題として取り上げられ、論議の的となったということも聞いたことがありません。

「大賀意見書」を前面に立てて要求の実現を図るという、ただ一度だけありえた機会はむなしく失われ、局面は変わってしまいました。今や誰も、「八橋班報告」や「大賀意見書」のことを話題にする人はいません。憂鬱な思いにとらわれますが、こういう中で、患者会の知性と良心の結晶のような「大賀意見書」と大賀和男さんの存在を知ることができたことだけが唯一の救いと考えています。

〈以上をもって「会員の声」特集ページを終わります〉

新年交流会に40名が参加

1月11日　バンド演奏に盛り上がり

1月11日（日）に開催された恒例の新年交流会には、会員40名が参加し新年の門出を祝いました。

当日は特別参加として、カントリーバンド「カントリーパートナーズ」（本木隆代表）のメンバー5名が出演され、会食後の約1時間、昔懐かしいカントリーウエスタンやアメリカンフォークの名曲の数々を演奏していただきました。

参加者は、しばしの間、日ごろの闘病の憂さも忘れる思いで音楽に聞き入り、手拍子で楽しみました。「カントリーパートナーズ」の皆さん、本当に有難うございました。またの出会いを楽しみにしています。

新年交流会では、その後、30周年記念行事の企画やこの春から運用を開始した、当会のホームページについての案内を聞いて、散会となりました。（写真は当日の演奏スナップ）

安部欣一さん「お別れ会」

「患者会は第二の家族」を提唱

本紙一面の黒川さんの追悼記事にもあるとおり、長年、副会長や相談役として活躍された安部欣一さんが、昨年11月17日肝臓がんのために亡くなられました。安部さんは何度ものがん手術を乗り越えられ、91歳の長寿を全うされました。

今年2月2日、ホテル「ガーデンパレス」において、安部さん自身が社長として経営されていた「大学図書出版」などの主宰による「お別れ会」が催され、関連の出版関係者など約200名が出席して別れを惜しみました。

当会からも、会員有志10名が参加して、ご生前の安部さんのご指導に感謝するとともに、安らかなご冥福をお祈りしてきました。

安部さんは、当会役員在任中、常々「患者会は第二の家族」をモットーに会運営に努められ、会員の親睦と融和に貢献されました。

末期の肝硬変と肝がんをかかえながら、91歳の長寿を全うされた安部さんの不屈の闘志に学びながら、私たちも頑張っていきたいものと思います。

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号

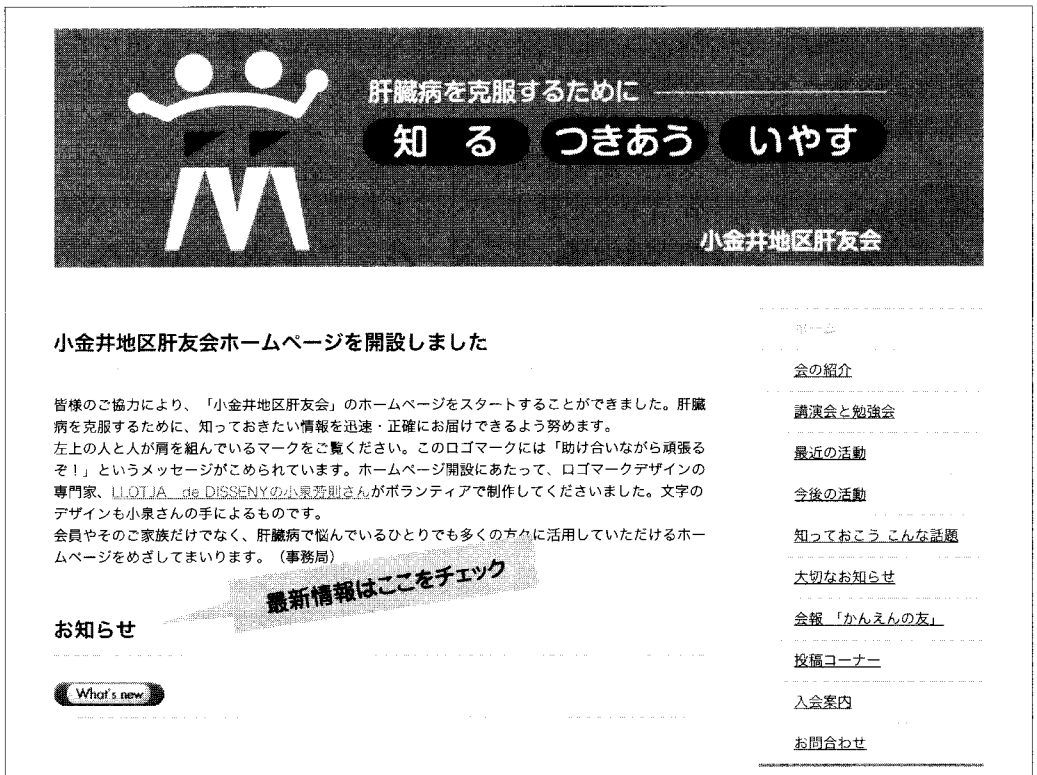
小金井地区肝友会のホームページができました

30周年記念事業のひとつとして、ホームページを立ち上げました。
内容的にはまだまだこれからです。充実したホームページに育つよう、皆様のご協力をお願いします。ホームページをご覧になって、ぜひご感想・ご意見をお寄せください。

＜ホームページの検索方法は2つ＞

① URLを入力する　⇒　http://www.kantomo-koganei.jimdo.com/

② 検索サイトに言葉を入力する　⇒　小金井、肝臓、助け合い　検索



ホームページ制作にご協力いただき有難うございました。
- 小金井市障害者福祉センター
- 小泉　芳則さん　（LLOTJA de DISSENY）
- 高柳　詔二さん　（JPITA公認パソコンインストラクター）

＊サイトは公開当初のものです。

編集人　小金井地区肝友会　〒184-0003 小金井市緑町4-17-16　電話　042-383-2024
発行人　障害者団体定期刊行物協会　〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21 電話03-3416-1698 定価100円

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号 付録

小　金　井
かんえんの友

会報115号　2015年3月20日
発行所　小金井地区肝友会
事務局　〒184－0003
小金井市緑町4-17-16（杉田）
Tel&Fax 042－383－2024
郵便振替　00170－1－96677

平成27年度　第30回
定例総会議案書（議事次第）

日　時：4月12日（日）午後1時～3時（開場：12:30）

会　場：小金井市福祉会館 2F A・B室

〈議事〉	・新設の当会ホームページ試写
第1号議案	・平成26年度活動報告
	・同決算報告・監査報告
第2号議案	・平成27年度活動方針提案
	・結成30周年記念行事　企画報告
	・同予算案提案
第3号議案	・運営委員選出に関する件

＊決算・予算等の会計関連議案は、準備の都合上、当日配布とさせていただきます。
もちろんすべての会員の方が会計資料を見る権利をお持ちですから、必要な方は後日ご連絡ください。当日以降、いつでも送付いたします。

＊総会当日、ご出席の方は、この議案書をお持ちください。

＊欠席の方は必ず同封ハガキにて「委任状」の提出をお願いします（3月末〆）。

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号 付録

第1号議案　・平成26年度活動報告

◎ **第29回　定例総会**

日時　平成26年4月20日（日）　午後1時―3時/　会場　小金井市福祉会館2F A・B室
来賓挨拶　小金井市　稲葉孝彦市長
出席　会員142名中、出席22名、委任状提出65名で成立

◎ **講演会　1** この講演会は、当初2月9日に予定していたが、当日の大雪のため延期していたもの

講師　慶應義塾大学看護医療学部教授　加藤眞三先生
テーマ　患者学／病気を抱えて元気に生きる患者に学ぶ
日時　4月27日（日）午後1：30―4：00／会場　小金井市商工会館萌え木ホール

◎ **講演会　2**

講師　武蔵野日赤　消化器科副部長　板倉　潤先生
テーマ　新薬情報を患者視点から読み解く―それで私はどうなるの？―
日時　7月13日（日）午後1：30―4：00／会場　小金井市福祉会館　2F　A・B室

◎ **日帰りバス旅行会　→　中止**

当初5月22日（木）、埼玉古墳群探訪（行田市）を予定していたが、参加者少数のため中止

◎ **運営委員会開催**（いずれも、小金井市福祉会館2Fにて）

・5月11日　・12月14日
・6月8日（日野邦彦先生ご参加）　・2月8日
・11月9日　・3月8日

◎ **談話室（患者交流会）**

・9月14日（日）午後／小金井市福祉会館2F

◎ **小金井市民まつり参加**

・10月18・19日（土日）　バザー等売上　約5万円

◎ **平成27年新年交流会**

1月11日（日）／小金井市福祉会館　会員40名参加　「カントリーパートナーズ」出演

◎ **会報発行**（この年度から、予算節減のため、年4回刊を3回刊に変更）

・112号（3/31刊）定例総会議案　・114号（12月末刊）板倉先生講演録
・113号（8月末刊）加藤先生講演録　・115号（3/20刊）「会員の声」特集

◎ **訃　報　謹んでご冥福をお祈り申し上げます（順不同）**

下岡カヨ子様（稲城市）　佐原栄子様（国分寺市）　小林三保子様（小金井市）
安部欣一様（武蔵野市）　米園茂美様（小平市）　以上　5名

◎ **会員数（順不同/3月末現在）**

・小金井市　21名　・国分寺市　14名　・武蔵野市　5名　・小平市　7名
・三鷹市　6名　・調布市　8名　・府中市　4名　・西東京市　11名
・多摩他市　13名　・都区内　14名　・他県　26名　／計129名

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号 付録

◎ **平成26年年度運営委員**（平成27年3月末現在／敬称略）

名誉会長　杉田　清子
会　長　川田　義広
副会長　窪田　裕和・渡辺久美子（会計兼務）・高井　桂三
事務局長　萩尾　邦生
事務局次長　北川　和幸・井川　妙子・谷口美和子
会　計　小向　ゆり・末藤　佳子
運営委員　田中　陽子・保坂　幸子・山崎　祐宏
相談役　黒川　清知（相談役　安部欣一様は、26.11.17にご逝去）
会計監査　栗橋　静江

◎ **上部団体役員**　・東肝会　副理事長に川田義広、理事に杉田清子

◎ **上部団体活動・患者会活動に参加**

平成26年4月　3団体共同街頭署名活動
5月　小金井市難病者の医療と福祉を考える会総会に参加
5月　国会請願活動の募金に協力（日肝協）
5月　日肝協　国会請願行動に参加
6月　ＮＰＯ東難連総会に参加
6月　ＮＰＯ東肝会総会に参加
7月　ＮＰＯ東肝会ポスター貼
7月　小金井市主催　肝臓病学習会に参加
7月　日肝協世界・日本肝炎デーフォーラムに参加
11月　日肝協代表者会議（栃木県宇都宮市）に参加
11月　ＮＨＫ健康フォーラムテレビ収録に参加
3月　東肝会小俣政男氏講演会聴講

平成26年4月～平成27年3月　難病相談支援センター主催・肝炎患者談話室参加
平成26年4月～平成27年3月　小金井市障害者福祉センター・相談事業参加
杉田清子さんが内部障害（肝臓病）担当のピア相談員

＊ホームページを開設しました

小金井地区肝友会のホームページがご覧になれます。
「小金井、肝臓、助け合い」のキーワードで検索してください。
皆さんの投稿を期待します。
ホームページ運営に参加する方、連絡ください。自宅で活動に参加できます。

第1号議案　・平成26年度決算報告／会計監査報告（別紙）

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号 付録

第2号議案　・平成27年度活動方針(案)

前年度の成果と反省をもとに、新年度の活動目標を下記のように提案します。

◎　肝臓病の正しい知識の普及と、優れた福祉行政を求める活動

・肝臓病医療講演会の開催
・「市民まつり」などイベントの参加による啓発活動
・難病団体・福祉団体との連携
・地域病院・地域医師会・地域保健所とのホームページを通じた連携および協力
・ホームページデモビデオの活用

◎　会員相互の親睦と協助を進める活動

・新春交流会の開催
・親睦と研修の日帰り旅行
・多摩地区患者会・23区患者会との交流と連携
・談話室の定期開催（地域別等を検討）

◎　広報活動と財政基盤づくり

・会報の定期発行
・会員参加型ホームページの維持運営
・健全な財政運営

◎　与曽蔵基金の活用のあり方について

・30周年記念事業への補てん

◎　他の肝臓病患者会の活動を支援し、行事に参加します。

・東京肝臓友の会へ理事を派遣し、活動を支援
・国会請願活動を支援するための募金に協力（日肝協）
・ＮＰＯ法人東京肝臓友の会　総会6月（予定）
・ＮＰＯ法人東京肝臓友の会・街頭キャンペーンに参加、協力
・日本肝臓病患者団体協議会　代表者会議　10月（予定）
・東京都難病相談・支援センターとの連携
・小金井市難病者の医療と福祉を考える会との連携

第2号議案　・結成30周年記念行事　企画報告(別紙)

・平成27年度予算案(別紙)

第3号議案　・新年度運営委員選出に関する件(口頭)

sskp 1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号 付録

第1号議案　・平成26年度決算報告／会計監査報告

◎平成２６年度一般会計　決算報告（平成２６年４月１日～平成２７年３月31日）

収　入		支　出	
前年度繰越	208,909	上部団体分担金	177,660
会費（115名）	419,400	事務用品	17,246
寄付金	36,000	通信費	78,721
新年交流会	30,000	活動費	297,283
助成金	110,000	会報印刷費（３回）	175,529
募金	145,500	新年交流会	30,000
市民まつり売上	59,070	交通費	40,653
利息	73	次年度繰越	191,860
計	1,008,952	計	1,008,952

◎平成２６年度与曽蔵基金報告（平成２６年４月１日～平成２７年３月31日）

平成２５年度末残高	1,200,265	結成３０周年事業へ拠出	400,000
		平成２６年度末残高	800,265
計	1,200,265	計	1,200,265

◎平成２６年度会計監査報告

平成２６年度会計決算報告を監査の結果、各項目とも間違いないことを承認いたします。

平成２７年３月　　会計監査　栗橋　静江

sskp　1977年12月3日第三種郵便認可（毎月18回1.2.3.5.6.7日発行）
創刊（1986年4月1日）2015年3月13日発行　通巻第5970号 付録

第2号議案　・平成27年度予算(案)

◎平成２７年度一般会計　予算（案）（平成２７年４月１日～平成２８年３月31日）

収　入		支　出	
前期繰越	191,860	上部団体分担金	170,000
会　費（110名）	401,170	事　務　費	50,000
寄　付　金	30,000	通　信　費	100,000
新年交流会	30,000	活　動　費	300,000
助　成　金	110,000	会報印刷費（３回）	180,000
募　　金	100,000	交　通　費	50,000
市民祭り売上	50,000	新年交流会	30,000
		予　備　費	33,030
計	913,030	計	913,030

◎結成３０周年記念事業　特別会計予算（案）（平成２７年度のみ）

収　入		支　出	
与曽蔵基金より繰入	400,000	本事業は現在継続中であり、中間的な支出報告はやめて、会計年度末に整理して、一括報告いたします。その後、結果のアカ・クロに関わりなく、一般会計に統合いたします。	
参加者会費（@3,000×30名）	90,000		
寄　付　金	50,000		
計	540,000	計	540,000

歩みつづけて３０年 —— 鎮魂と感謝、協助へ

小金井地区肝友会結成３０周年記念

「謝恩懇親会」へのご参加をお待ちしています

５月１０日（日）正午開会/３時閉会　　国分寺駅南口セレオ・８Ｆ・Ｌホール

多彩なゲスト陣との出会い、中華バイキングでの会食、そして同病の喜歌へ！

＊会費：３０００円／お申し込みは４月２０日（月）までに＊